

OTC(一般用医薬品)と類似する医療用医薬品の保険適用除外の動きについて

日本東洋医学会会長 三谷 和男

2025年1月27日に行われた衆議院の代表質問において、日本維新の会・前原誠司議員より、医療費削減の観点から、OTC(一般用医薬品)と類似する医療用医薬品を保険適用から除外すべきとの提案がなされました。この提案に対し、日本東洋医学会は強い懸念を抱いています。

漢方薬の一部はOTC医薬品として薬局・薬店などで購入可能ですが、OTC漢方薬と医療用漢方薬は全く同じものではありません。両者は有効成分の含有量が異なり、医療用漢方薬は医師の診断に基づき、患者の症状や体質に合わせて適切に処方されるものです。

日本維新の会は、社会保険料の引き下げを目的にこの改革を主張していますが、日本東洋医学会は以下の4つの理由から**医療用漢方薬の保険適用除外に対し強く反対します**。

① 医療機関への受診控えによる健康被害

一見「軽い症状」に見えても、医師の診断によって重篤な病気が早期に発見されることがあります。漢方は「未病」を意識して治療を行うことで、生活の質の低下、疾病の重篤化を防いでいます。

② 経済的負担の増加

医療用漢方薬の保険適用が除外されれば、特に長期間の治療を必要とする患者の経済的負担が大きくなります。漢方薬でコントロールできていた症状が不安定となり、患者の通院回数が増え医療費がかさむことが予想されます。

③ 入院中の漢方薬処方ができなくなる

入院中の漢方薬処方により、症状改善に加えて栄養状態が改善し、早く元気に退院できることが示されていますが、それができなくなります。

④ 薬の適正使用が難しくなる

医師の診断なしに自己判断で漢方薬を選択・服用することで、誤った使用や不適切な組み合わせによる健康被害が生じるリスクが高まります。

さらに、漢方薬を取り巻く環境はすでに厳しさを増しています。生薬の多くを中国に依存していることによる価格の高騰、国内における生薬生産の遅れ、こうした問題が重なれば、漢方薬の安定供給そのものが危ぶまれる可能性もあります。

日本東洋医学会は、日本臨床漢方医会とも連携し、医療用漢方薬の保険適用を維持し、すべての患者が適切な漢方治療を受けられる環境を守るために尽力してまいります。

皆様の健康にとって、この改革案はどのような影響を及ぼすと考えますか。皆様の貴重なご意見を、ぜひお聞かせください。

2025年2月20日

ご意見は以下の URL にアクセスしてご回答ください。

【google フォーム】 <https://forms.gle/S6jZfXfHpPrwFYEKA>